

市の取組における姿勢

「地域住民がいきがいを持って、安心して幸せに住み続けられる街・浦・里の実現」のためには、行政主導による地域づくりではなく、住民自身が考え、納得した地域づくりを進めていくことが最も肝要です。住民の思いを反映し、地域の判断と責任によって事業展開が行われるよう「住民の、住民による、住民のための、地域づくり」という意識を醸成していかなければなりません。

市の取組における姿勢としては、地域の主体性を引き出すために、極力、「たたき台」や「原案」は示さず、ワークショップ等の場づくり、環境整備や情報提供に徹し、組織編成や活動内容の企画、設計は地域に委ねることを念頭に協働の作業を進めていきます。一律的に部会や事務局等の設置を求めず、地域での話し合いに委ね、地域に合った仕組みにします。話し合いの結論も重要ですが、話し合いのプロセスの中で地域内にやる気が芽生え、ネットワークが生まれ、住民自らが自発的に考え活動することを重視します。

また、地域コミュニティの支援に際しては、市の支援についても、地域代表者と市と一緒に議論し構築していきます。あくまでも、ゼロから住民と市と一緒に考えるスタイルを採用し、住民と市の対等なパートナーシップを強化することに力を入れていきます。

市は、この指針を基本とし、地域の主体性と地域の実情に応じた柔軟かつ丁寧な支援を継続して行っていきます。